



あっさり黙示録

#21 『ユダヤ人救出極秘計画と鷲の翼』

黙示録 12 章

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。今日は**あっさり黙示録** 第 21 回目です。  
今私たちが見ているのは、7 年間の艱難時代のちょうど中間時点に起こることです。  
これは**黙示録 12 章**に出て来ます。12 章は中間時点で起こること、それ以降に起こることが詳しく語られているのですが、ちょっと分かりづらい、そんな表現が多いんですね。  
というのは、専門用語で書かれているからです。

“ブラック企業” を黒字の企業だと解釈したら、トンデモナイ勘違いですね。  
これは、“新卒社員を潰してしまうような、大学就職課のブラックリストに載っている企業” という  
ことからの名前だと言われています。  
言葉の定義・意味を正確に理解しなければ、言わんとしていることが分からないということです。  
そこで今日は、聖書の専門用語を説明しながら**黙示録 12 章**を解釈したいと思います。

**黙示録 12 章**

**13 竜は、自分が地へ投げ落とされたのを知ると、男の子を産んだ女を追いかけた。**

竜は悪魔。男の子は、ここではメシア。イエス・キリスト。  
男の子を産んだ女は、メシアを産むために選ばれた民族、イスラエル民族/ユダヤ民族。  
悪魔はメシアを産み出したイスラエル民族を憎んで、迫害のために追跡した。  
これが、艱難時代の中間時点で起こることです。

**14 しかし、女（イスラエル）には大きな鷲の翼が二つ与えられた。**

**荒野にある自分の場所に飛んで行って、そこで一時（ひととき）と二時（ふたとき）と半時（はんとき）の間、蛇の前から逃れて養われるためであった。**

イスラエルは大きな鷲の翼が与えられたので安全地帯に逃れ、3 年半の間 悪魔の攻撃から完全に守られるのだ。

大きな鷲の翼は専門用語で、“神の力によって、絶体絶命の危機的状況から安全圏に無事逃れることができた” という有り様を語っている表現です。それが“鷲の翼に乗せられる”とか“鷲の翼が与えられる”という表現ですね。なぜそんな解釈になるのでしょうか。

この表現が最初に出て来るのは**出エジプト記 19 章 4 節**。

**あなたがた（イスラエル民族）は、わたし（神）がエジプトにしたこと、また、あなたがたを鷲の翼に乗せて、わたしのもとの連れて来たことを見た。**

イスラエル民族のために、神がエジプトにしたことって何でしょう？ 10 個の裁き・災い・懲罰です。

あなたがたを鷲の翼に乗せて、わたしのもとに連れて来た。エジプトから無事に脱出できた。

鷲の翼に乗せてと書いてあるからといって、“その時 巨大な鷲がバタバタと羽ばたきながら現れて、その背中に 200 万～300 万のユダヤ人がしがみついで運ばれて行った” という意味に取ってはなりません。そんなこと、起きてませんから。

歴史上実際に起こったのは、指導者モーセを通して、暴君ファラオの大迫害の中から、イスラエル民族が丸ごと救出されたということ。つまり、絶体絶命のピンチの状態から安全圏に連れ出すことができた。完全に守られて安全な所に行きました、という意味の表現なんですね。

ところで、1947 年～1948 年にかけて、中東のアラブ諸国では広範囲にわたって、ユダヤ民族に対する大迫害が起こりました。なぜそんなことが急に起こったのでしょうか？

1947 年は、国連でユダヤ人たちに国を与えることが決定、パレスチナ分割決議が決議された年。1948 年は、その決議に基づいて、実際にイスラエルが建国を果たした年なんですね。

このような大事件の時、アラブの国々はイスラエルへの敵意もさることながら、まずは自分の国にいるユダヤ人たちをやっつけてしまおうと、憎しみの矛先が自国のユダヤ人に向かったんです。大迫害が起こりました。



イスラエル      イエメン

その国の 1 つがイエメンです。

イエメンはアラビア半島最南端の淡ピンク色のところで、アデンという港があります。

イスラエルは紫色。

イエメンにはソロモン王の時代からユダヤ人共同体があり、イスラエル建国の頃には、約 5 万人のユダヤ人がここに住んでいました。彼らは 3000 年間もそこに住んでいるので、もう地域住民ですよ。何の問題もなく住んでいたんです。

ところが、いざイスラエル建国が現実になった時、狙い撃ちにされた。

財産は没収され、家は焼かれ、彼らの祈りの家は破壊され、1948 年だけで 82 人のユダヤ人が理由もなく殺されてしまった。これを放置しておいたら、5 万人のユダヤ人は全滅します。

イスラエルは、何とかしなければならぬと決意したんですね。

その頃、イエメンのイスラム教指導者イマームがおふれを出しました。

「イエメン中に住んでいるユダヤ人よ、イスラエルに帰って住んでもいい。許可する。ただし、財産は全部置いて行け。」

しかもイスラエルに渡るルートは、アラビア半島を横切る（陸路最短距離）ことも、紅海を渡って、アフリカ大陸のエジプトに入ってからイスラエルに行く（海路最短距離）ことも許さなかった。



イエメンとイスラエルの地図を見てみましょう。  
黄色全体はアフリカ大陸。イエメンは赤く塗り潰しているところです。  
イエメンとイスラエルはアラビア半島を通ったらすぐ隣、近いですよ。  
ところが、アラビア半島行くな。紅海も渡るな。  
それだと、緑のラインで書いてあるように、船でアフリカ最南端の喜望峯周りで大陸ほぼ一周。超遠回りでないといえぬイスラエルに行けない。  
つまり、非現実的なことを言っているんです。  
要は、財産 置いて行け。出て行け。しかし、出て行くルートは使えぬ。  
居続けたら皆殺し。ムチャクチャ。

そんな状況に陥った時、イスラエル政府は動きました。イエメンに住んでいる5万人のユダヤ人たちを丸ごと、極秘裏にイエメンからイスラエルに移動させる秘密大作戦を決行しようとした。  
なぜ秘密でないと駄目なのか。イスラエルとイエメンは国交を結んでいないので、イスラエルの航空機をイエメンの飛行場に送るなら、領空に入った段階で撃墜されるんです。  
だから“5万人がわずかな時間に忽然と姿を消したと思ったら、気がつけば全員イスラエルに移ってました”のような作戦を、すべて秘密のうちに成功させる必要があったのです。  
この奇襲作戦が“オペレーション・マジック・カーペット／魔法の絨毯作戦”。別名“鷲の翼作戦”。

具体的には、イスラエルの航空会社エルアルが自社の飛行機にペンキを塗って、無国籍のチャーター機のように偽装しました。しかし、それだけでは5万人にはとても足りない。  
そこで、ユダヤ人に協力してくれる世界中の航空会社、例えば、アラスカ航空の経営者はユダヤ系だったので、「同胞を助けるためになんとかして欲しい」と打診を受けた時、「分かりました。できる限り飛行機を揃えましょう」と、イスラエルに飛行機を貸し出したんです。

ところで、当時は大型旅客機がありませんでした。提供されたのはダグラス DC-4、定員 50 人。それ以上のものはなかった。第二次世界大戦が終わって間がないんですよ。  
50 人乗りの飛行機に、できるだけ多くの人間を乗せなければなりません。  
長々・ダラダラと作戦やってたらバレる。どんな秘密もいつかはバレます。5 万人の国民が消えたなんてこと、バレないわけがない。一瞬で、ユダヤ人移動を成功させなければならないんです。

そこで、DC-4 の中央通路の左右の座席を全て取っ払い、木製の 4 人掛けベンチをぎっしり並べて 6 人ずつ座らせ、6 人が 1 つのシートベルトを掛けて。そうして、定員 50 人のところ 120 人のユダヤ人が乗ったんです。なぜそんなに乗れたのか。彼らはガリガリに痩せてたからですよ。

重量制限ギリギリの中でのフライトという計算の下、DC-4 がアデンに次々に飛んだのですが、これが…大変なことだったんです。イエメンのユダヤ人たちは、自動車も見たことがない人たちがほとんど。生まれて初めて、金属で出来た乗り物が空を飛んでやって来た。  
「タラップ上って早く機内に入って！」だけど、みんなパニックになって拒否ですよ。  
「こんな恐ろしい乗り物に乗れるものか！」抵抗して乗ろうとしなかった。

その時 彼らを説得したのが、イエメンのユダヤ人宗教的リーダーのラビです。  
**出エジプト記 19 章 4 節**を使って、「かつて神は、モーセがいた時代にこう言われた。」

**あなたがたは、わたしがエジプトにしたこと、また、あなたがたを鷲の翼に乗せて、わたしのもとに連れて来たことを見た。**

「見てごらん、この大きな鉄の塊を。まさに鷲の翼を持った乗り物ではないか。」  
この聖書の言葉に説得されて、彼らは次々と機内に乗り込んだのです。

彼らが乗り込んだ後、今度はパイロットやクルーたちが、このユダヤ人たちに驚かされるという事件が起きました。彼らはコックピットまでやって来たんですね。熱々の紅茶を持って…。この働きを労おうと思って、砂糖たっぷりの紅茶をふるまおうとしたんです。が、この飛行機には水をボイルする設備はない。水は配られたでしょうが、どうやってお湯にしたのか。心配になってクルーが客席に行くと、なんとね、床で火を焚いてた。飛行機の床で、移動式コンロで炎ボーボー出してお湯を沸かしてた。床は黒く焦げて…。めっちゃ危ないですよ、これ。下手したら飛行中に炎上墜落。飛行機見たことない。ましてや乗ったこともない。やってはならないことが全然分からない。そういう状況だったんですね。

そんな人たちが、やがて窓の外に、夢にまで見たイスラエルの地を見た。  
その時1人のユダヤ人が、「我々は遂に約束の地 イスラエルに来た！しかも、鷲の翼に乗せられて！」  
そう叫んだ時、全員が大拍手喝采で喜んだ、という記録が残っているそうです。

もう一度、**黙示録 12 章。**

**14 しかし、女には大きな鷲の翼が二つ与えられた。**

**荒野にある自分の場所（ボツラ／現ヨルダンのペトラ）に飛んで行って、そこで一時と二時と半時（3年半）の間、蛇の前から逃れて養われる（神によって保護される）ためであった。**

悪魔は反キリストという人物を通して、艱難時代の間時点にユダヤ人大迫害を企てますが、それらは全部失敗します。悪魔はいつも悪の力を思う存分振るって、神の計画を邪魔しようとしみます。そして、神を信頼する人々を攻撃しようとしみますが、すべて失敗します。悪の力よりも善の力／全知全能の神の力のほうが、はるかに大きく強いからです。

皆さんの中にも今、人生にずいぶん苦しみを感じている方がおられるかもしれません。様々な悪の力によって行く手を阻まれる、ということがあるかもしれません。しかし、その悪の力を凌駕し、完全に屈服させてしまう善の力・素晴らしい全知全能の恵みの力があるのです。この恵みの力に守られて生きたいと思いませんか。

まだイエス・キリストを信じていない方はぜひ、女と言われているイスラエルが産み出した男の子/メシアの中に入ってください。メシアの救いを受け取ってください。  
悪の力に打ち勝つ善の力を、自分の人生に帯びてください。  
素晴らしい、新しい神を経験する人生の中に入ったら、どんなに素晴らしいかと思います。

12 章はあと 2 つほどポイントがあるので、続きはまた解説します。  
よろしければ、お付き合いください。チャンネル登録もお願いします。  
ではまた お目にかかりましょう。皆さん、お元気でいてください。さよなら！

☆使用した聖書は「聖書 新改訳 2017」です。